

道徳科学習指導案

指導者 川本 智恵

- 1 学 年 第1学年1組 5名
- 2 日 時 令和5年1月27日（金）第5校時
- 3 主題名 「すこしぐらい」（C 規則の尊重）
- 4 本時のねらい

きまりを守らずに、少しぐらいならいいだろうとこっそり石を持って帰る人々の気持ちを考える活動を通して、人間の持つ弱さに触れ、自己中心的な考えが積み重なるとみんなが困ることに気付くことから、進んできまりを守ろうとする態度を養う。

- 5 教材名 「おおひとやま」（日本文教出版）
- 6 主題設定の理由

（1）主題観

規則の尊重とは、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことである。本主題では、きまりが、個人や集団がよりよく生活できるようにするためにあることを理解し、きまりを進んで守ろうとする態度を養う。また、きまりを守らずに、「自分一人くらいならいいだろう」、「少しぐらいなら大丈夫だろう」などのように自分の気持ちを優先して行動していると、それが積み重なって、みんなが困ることに気付くことで、みんなが使う物や場所を進んで大切にし、工夫して使いたいという実践意欲や態度を身に付ける。

（2）児童観

本学級の児童は、きまりがあることは理解し、守ろうとする様子が見られる。児童同士で声をかけ合って、きまりを守ろうとする場面も多々ある。また、本学級の児童を対象にした児童生徒等の意識調査（道徳アンケート12月実施）によると、「学校のきまりを守っている」の項目で肯定的評価をした児童は100%であった。しかし、この時期の児童は、きまりを守ることの意義に対して「先生に叱られるから」のような他律的な考えで行動してしまうことも多々ある。また、自己中心性が強く、周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。

（3）教材観・指導観

本教材は、みんなの自慢のおおひとやまに大勢の人が訪れ、「少しぐらいなら」という考えから石を持って帰ったことにより、自慢の山がだんだん小さくなってしまいう話であり、自己中心的な考えが積み重なるとみんなが困ることに気付くことから、進んできまりを守ろうとする態度を養うのに適した教材である。

指導にあたっては、まず、おおひとやまの挿絵を見せ、どんな山なのかについて見た感想を出させることで、おおひとやまが国中の自慢の山であり、大切なものであるという人々の思いに共感させる。

次に、こっそり石を一つずつ持って帰った人々の気持ちについて考えさせ、きまりがあることは理解しているが、少しぐらいならいいだろうという自分勝手な思いや人間の持つ弱さを捉えさせる。

そして、「おおひとやまが小さくなってしまった時、村人はどんなことを考えたのでしょうか」と発問する。その際、おおひとやまが崩れていく場面の動画を見せることでどの児童にも捉えやすくさせる。

最後に、須波小学校のきまりを出させ、「そのきまりは少しぐらいなら守らなくてもいいのではないか」と切り返し発問をすることで、きまりを守ることの大切さを実感させ、進んできまりを守ろうとする態度を養う。

7 カリキュラム・マネジメントの取組

- 1学期の道徳学習プログラムの「みんなが仲良く過ごせる学級になろう」の目標に向かって、「みんながいいきもち」になった時はどんなときかを生活の中で見つける取組を行った。周りの友達の様子を見て、「みんながいいきもち」を意識した言動が少しずつ出てきた。
- 2学期の道徳学習プログラムの目標は、「自分のことからみんなのことへ気持ちを考えた行動をしよう」である。道徳の学習の中で考えた、「自分だけではなくて、みんながいい気持ち」になる行動や言動について生活の中で振り返りを行った。トイレの使い方や学級図書の整理整頓など、一人一人が気をつければみんながいい気持ちになることに気付き、児童同士で声を掛け合いながら生活する様子が見られるようになった。

8 本時の展開

(1) 準備物 場面絵、短冊、写真

(2) 本時の学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入 10分	①本時で学習するテーマを捉える。	<p>おおひとやまは、どんな山なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てっぺんがとんがったきれいな山。 ・ほかの山よりも、雲よりもずっと高い。 ・国中の自慢の山。 	○おおひとやまの挿絵を見た感想を出させ、おおひとやまが人々の自慢の山であり、大切なものであるという人々の思いに共感させる。
展開 25分	②教材「おおひとやま」を読んで考え、話し合う。 ・P100～102まで読む	<p>どんな気持ちで、こっそり石を一つずつ持って帰ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しぐらいならいいや。 ・一つぐらい大丈夫。ばれない。 ・誰も見ていないから、私ぐらいはいい。 	○挿絵の人物の表情や様子に注目させ、こっそり石を持って帰る人々の気持ちを考えさせる。その際、P101の挿絵とP102の挿絵の人物の表情の違いに着目させ、気持ちを考えやすくさせる。

	<p>・ P103～最後まで読む。</p>	<p>・きまりがあるけれど、こんなにあるんだから一つならいいや。</p> <p>・たくさんじゃないよ。一こだけだから許して。</p> <p>・おまもりに一つだけください。</p> <div data-bbox="469 927 943 1095" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おおひとやまが小さくなってしまったとき、村人はどんなことを考えたのでしょうか。</p> </div> <p>・ちゃんときまりを守ればよかった。</p> <p>・「少しぐらいなら」というのは、いけなかったな。</p> <p>・自分だけがいい気持ちはダメで、みんながいい気持ちになるようにしないといけない。</p> <p>・きまりを守れば、みんながいい気持ちになったんだな。</p> <div data-bbox="469 1599 943 1711" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>須波小学校のきまりにはどんなものがあるのでしょうか。</p> </div> <p>・図書室では静かに過ごす。</p> <p>・本は元の場所に戻す。</p>	<p>○少しぐらいならいいだろうという自分勝手な思いから持って帰ったことを確認する。</p> <p>○隠して持って帰っていることからしてはいけないことだと理解しながらも持って帰っているという弱さを捉えさせる。</p> <p>○「少しぐらいいい」と思った人々の考えを押さえた後、おおひとやまが崩れていく場面の動画を活用し、きまりを守らず石を持って帰った結果、自分たちの自慢の山がどんどん小さくなってしまった様子を理解させる。</p> <p>○教材文を最後まで読んだ後に発問することで、「少しぐらい」という考えで行動してしまうと、みんなが困るという考えを持ちやすくさせる。</p> <p>○児童一人一人に自分の考えを持たせるために、道徳ノートに書かせる。</p> <p>☆「少しぐらい」「自分一人なら」きまりを守らなくても大丈夫という考えで行動してしまうとどうなるのかについて考えを深めることができたか。（道徳ノート、発言）</p> <p>○校内でのきまりを考えさせることで、実生活に目を向けさせる。</p> <p>○すぐに意見が出ない場合は、写真を用意し、考えの手掛かりにさせる。</p> <p>○主題の「少しぐらい」の言葉を使って繰り返し発問をすることで、きまりを守ることの大切さを実感させる。</p>
--	-----------------------	--	---

<p>終 末 10 分</p>	<p>④本時の学習から、これからの自分に生かしていきたいことを考える。</p>	<p>今日の学習で大切だと思ったことは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりは絶対に守る。 ・すこしぐらいはだめ。 ・自分だけは大丈夫はだめ。 ・きまりはみんなで守ることが大切。 	<p>○本時の学習で大切だと思ったことを出させることで、実生活において進んできまりを守ろうとする態度を養う。</p>
-----------------------------	---	--	--

9 板書計画

